東奥日報社提供

東　奥　日　報
2019年（平成31年）1月29日（火曜日夕刊）（3）

標準語 南部弁に変換

八工大生 パソコン用アプリ開発

まるこ→全くできない　たましぽろぎ→とても驚く

「まるこ（全くできない）」「たましぽろぎ（とても驚く）」―。本県東部で使われ、地域外の人には難解な南部弁に親しんでもらおうと八戸工業大（八戸市）の学生らが、標準語を南部弁に変換するパソコン用アプリを開発した。まだ試作段階だが「人工知能（AI）を活用し、実用化を目指す」と意気込んでいる。方言を伝承する狙いもある。

パソコンにつないだマイクに向かって標準語を話すと、変換された南部弁の音声が流れる仕組みで、例文も付く。現在はイベント時のみ公開されているため、16日に記者がキャンパスを訪れ、使わせてもらった。

「恥ずかしい」と話し掛けると、「しょし」とすぐに反応があり、「そっただ格好だばしょしがべ（そんな格好じゃ恥ずかしいじゃない）」との例文が流れた。別の単語を使い、繰り返すうちに南部弁への興味がわいてきた。

音声は、南部弁の伝承活動に20年以上取り組む八戸市の柾谷伸夫さん(70)のものだ。柾谷さんは「南部弁を使う人が少なくなり、消滅の危機にある。アプリを使って、郷土文化をぜひ継承してほしい」と期待を込める。昨年4月から開発を進め、プログラムを組んだ。現在は登録済みの76単語分しか変換できないが、開発リーダーを務めるシステム情報工学科3年佐藤和範さん(21)は「今後は単語の数を増やし、スマートフォンのアプリを開発したい」と話す。

八戸工業大の学生らが開発した、標準語を南部弁に変換するパソコン用アプリの画面

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」